

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会小委員会の設置について

小委員会名：学協会における男女共同参画のあり方に関する検討小委員会

1	担当部及び関係委員会名	第二部
2	委員の構成	12名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>世界経済フォーラムが7月13日に発表した2022年版のGlobal Gender Gap Reportにおいて、日本のジェンダーギャップ指数は、146カ国中116位であり、また、研究者における女性比率も17.5%で、先進国の中で最低レベルが続いている。研究者の中では、特に、生命科学分野と理工学分野で、人事権のある上位職の女性比率が低い。生命科学・理工学分野における大半の研究は、チームで行い、複数名の研究者が連名で成果を発表するため、研究を進める上で、仲間がいるということが重要になってくる。研究の仲間を作る場が学協会であるが、多くの学協会で会長・副会長は男性であり、理事・評議員においても女性が少ないことが推察される。学協会における男女共同参画を推進するには、まず現状を把握することが必要であるが、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会に所属している自然科学系の学協会は118団体であり、千を超える同分野の学協会の実態は明らかになっていない。そこで、日本学術会議に登録している自然科学系の学協会の実態を調査し、ジェンダー・ダイバーシティに関する課題を明らかにし、それらの課題解決のための方策を提案するために本小委員会を設置する。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学系分野の学協会におけるジェンダー・ダイバーシティの実態調査 2. 実態調査から導かれる課題の抽出 3. 自然科学系分野の学協会のジェンダー・ダイバーシティの実態に関する情報の収集と課題の抽出 4. 上記の課題を解決する方策の提案 5. 上記の課題および解決の方策等の科学者コミュニティと社会への周知と啓発 <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和4年8月30日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置